保育士、母校に帰る。

〜田園調布学園大学編〜

実践的な学びや活動を数多く取り入れる
田園調布学園大学の教育。
こうした教育が現場で実を結び
社会福祉法人厚生館福祉会で活躍する
保育士4年目の佐々木さん。
在学中に彼女のゼミを受け持った
内藤先生と久しぶりの再会を果たし
学生時代の思い出を回顧しながら
保育者としての未来を語りつくす。

——本日は、田園調布学園大学子ども未来学部の学部長である内藤教授と、同校の卒業生であり、現在は社会福祉法人厚生館福祉会に保育士として勤める佐々木さんにお越しいただきました。お二人が再会されたのはいつぶりですか？

【内藤先生】ちょうど1年前の秋に、「保育・教職実践演習」という授業の中で、佐々木さんには自身の就職活動についてや実際に保育者として働いてみての感想を、在学生に向けて話していただきました。その時以来ですね

【佐々木さん】そうですね。その節はありがとうございました。

【内藤先生】こちらこそありがとうございました。

——さっそくですが、お二人の出会いについて教えてください。

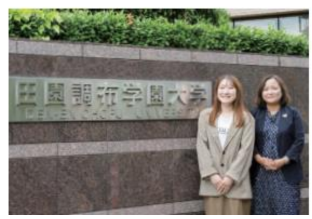
【佐々木さん】大学2年生の頃から内藤先生の授業を受けていましたが、特に関わりが深かったのはゼミでお世話になったことですね。

【内藤先生】そうですね。ゼミのテーマは、学生とともに考えるのですが、その年は子育て広場など親子の遊びの場所を作ろうという内容でした。また遊び場をただ作るのではなく、企画を一から考え、必要な準備をし、実行に移すまでのプロセスを経験するという実践型のゼミでした。

——内藤先生の中で印象的な佐々木さんのエピソードはありますか？

【内藤先生】あります。本学ではＤＣＵ祭と呼ばれる学園祭があり、ゼミで子どもたちのための遊び場を作ることになりました。どのような遊び場を作るか、学生たちからさまざまな意見が出るものの、実際にどのように実現していくかまではまとまらず、企画が難航していました。そんな時、佐々木さんが「こんな物を作ってみたい！」と、一つの試作品を持参して提案してくれました。それは、大きな画用紙の中央に魚が描かれていて、色紙やモールで作られた鱗一つひとつが、異なるデザインになっている作品でした。学園祭では、この鱗一つひとつを来場した子どもたちに製作してもらい、一つの大きな魚を作り上げるという素晴らしい案で、私も学生たちもみんな賛成しました。

【佐々木さん】学園祭に向けてどんなことをしたら子どもたちに楽しんでもらえ



田園調布学園大学
子ども未来学部 学部長・教授
内藤 知美
Naito Tomomi
田園調布学園大学子ども未来学部教授（学部長）、同大学院人間学研究科教授。日本保育者養成教育学会副会長、江東区こども・子育て会議副会長等を務め、幅広い社会活動も行っている。

田園調布学園大学 卒業
2021年4月 入職
佐々木 美果
Sasaki Mika
日々の保育の中で「楽しい」と感じることが多いと話す保育士4年目の佐々木さん。実習を通してこの厚生館福祉会への入職を決意。現在は1歳児クラスの担任として奮闘している。

るか、図書館に行ったり、ほかの事例を調べたりして見つけることができました。

【内藤先生】あの時の試作品は素晴らしかったです。かなり時間をかけて作ってきてくれたんですよね。

【佐々木さん】そうですね。実際にどのようなものになるのか、簡単な実物をゼミのみんなにも見てもらった方が早いと思い、作りました。

【内藤先生】佐々木さんが試作品を用いて提案してくれたことにより、みんながイメージを共有することができ、それからはみんなで協力して当日まで準備を進めることができたんですよね。

【佐々木さん】製作を進める中で、子どもたちの安全のために使える材料や環境にさまざまな制限があったため、思うように進まないこともありましたが、内藤先生や造形担当の先生方のお力も借りながら準備をしていました。自分たちでも意見を出し合いながら、試行錯誤して完成させることができたのを覚えています。その時に、多方面からの視点で物事を考え、仲間と協力することの大切さを学びました。

——学園祭を通して、とても素敵な体験をされたのですね。内藤先生から見て、学生時代の佐々木さんはどのような学生でしたか？

【内藤先生】自分の考えを明確に持っている学生でした。また、自分のやりたいことを実現させるための力を持っている人だと思いました。ですが、好き勝手に突き進むというわけではなく、周りからのアドバイスをしっかりもらいながら進めていましたね。リーダーとして周りをぐいぐい引っ張っていくというよりは、しっかりと積み重ねをすることで周りからの信頼を得て、自然にリーダーの立ち位置にいる学生だったように思います。

【佐々木さん】自分で進めていくことが心配になることが多々あったので、内藤先生には本当に多くのことをご相談させていただきました。その度に親身になって一緒に考えてくださったのを今でも覚えています。

——就職活動の際も内藤先生にご相談はされたのですか？

【佐々木さん】そうですね、たくさん相談をしました。例えば、自分の強みや魅力を知ることは就活においてとても大事なことだと思うのですが、自分だけでは言語化が難しかったため、内藤先生に相談しました。先生との会話の中で、自分の好きなことや得意なことを言語化して就活に活かすことができました。

——就職先は実習でもお世話になった厚生館福祉会ということですが、実習をした上で同法人への就職をした決め手は何ですか？

【佐々木さん】魅力はたくさんあるのですが、一つは就職した後もしっかりと学べる環境があったということです。実習をした際に、先生方が受けていた研修を一緒に受けさせていただく機会がありました。ちょうど責任実習が終わり、なかなか思うように事が運ばずに悔しい思いをしていた時でした。研修を通して子どもの惹きつけ方や、保育の進め方を学ぶことができ、「もっとこうすれば良かったな…」と改善点を見つけ、悔しそうにしている私の様子をみて、園長先生が「もう一度、責任実習にチャレンジしてみる？」と声を掛けてくださったのです。研修で学んだことを活かし、前回責任実習で行ったことを少しアレンジして実践

図書館
地域の親子も利用できるため、絵本がたくさん並び、実習前には学生たちが読み聞かせのための絵本を借りる姿も。

DCU子どもひろば:みらい
佐々木さんが卒業後にできた、乳幼児とその保護者のあそび場・子育て支援室。魅力あふれる玩具や遊具がいっぱい！

研究室
内藤先生の研究室には、在学中何度も訪れたという佐々木さん。「先生が笑顔で迎えてくれる、安心できる場所でした」

PCルーム
約160台のパソコンを完備。「授業の課題を友達と一緒にしていました！学生証があればノートPCの貸出もあります」

学生食堂
ガラス張りの食堂では、昼食の時間になると学生たちの賑やかな声が聞こえてくる。どのメニューも低価格で美味しい！

したところ、子どもたちが大喜びしてくれて…。本当に嬉しかったです！その時に、働き始めてからも学べる場があるってとても大切だと感じたんです。

【内藤先生】なかなか、自分自身が働き始めた後のことまでイメージできる人って少ないので、そういう面でも佐々木さんは本当に学生としてしっかりしていたと思います。

【佐々木さん】ありがとうございます。あと、もう一つの決め手は、働く先生たちがとても楽しそうで、尊敬できる先輩方がいたというところです。

【内藤先生】楽しそうに働いているというのは、とても大事ですよね。先生が楽しんでいる様子を見て、子どもたちも楽しくなりますし、子どもにとって大事な環境だと思います。今、佐々木さんが働いている法人では、たくさんのサークル活動があると聞きました。ウクレレや太鼓など自主的な活動は保育者のゆとりにもなり、保育の幅を広げるのにもとても良さそうですね。保育者が楽しみ、そして何かに熱中する姿を子どもたちに見せることは、子どものやりたい気持ちを育てる絶好の機会になりますね。

——佐々木さんが学校で学んだことで、現在の保育に活きていると感じることはありますか？

【佐々木さん】たくさんあります！授業やゼミでも、実践的な学びはやはり就職してから活きているなと感じます。例えば、園内で子どもに向けた環境作りをしたいと思った時に、どのような材料が必要か、どのような順序で準備をしていく必要があるか…と考える力が身についていたことは、現在の保育に大いに活きているといえます。子ども向けの遊び場を作るにあたり、企画段階から構想を練って、その完成までのプロセスを大事にしてきたことが、現場で必要な力を培ってくれたと思っています。

【内藤先生】実践の場で実現できるようにさまざまな学びを伝えていくというのは本学の授業の特長でもあると思います。そのことが実際の保育の現場で活きているというお話が聞けてとても嬉しいです。

——学校での学びが活きているというのは、教師冥利につきますね。内藤先生は普段どのようなことに気をつけながら学生の指導をされていらっしゃいますか？

【内藤先生】子ども一人ひとりは個性をもつ、それぞれ違う人間であるということ、そしてその子どもたちを一人の人間として尊重すること。これは一貫して学生たちに伝え続けていることです。また、保育者として活躍するためにも、焦らず長い目で保育者としての自信や力をつけていってほしいと思っています。いろいろな人の力を借りたり、アドバイスをもらったりしながら解決につなげていく。そのためには人に相談する力もつけてほしいです。学生時代は、特に、人とつながる力を育ててほしいと思いながら日々の指導にあたっています。

——ありがとうございます。最後に現場で活躍する佐々木さんへメッセージをお願いします。

【内藤先生】保育者としても人間としても成長していってほしいと願っています。保育者が豊かに育っていける環境、今がまさにそうだと思うのですが、子どもたちを尊重しながら保育者としての経験を積み重ねていってください。

【佐々木さん】ありがとうございます。

数年ぶりに母校へ帰ってきた佐々木さん。初めは緊張した様子だったが、内藤先生が温かく、笑顔で迎え入れてくれて安心した様子。少し言葉を交わすと、先生と学生の関係に戻ったように、思い出話に花を咲かせていた。

佐々木さんが提案した、魚の試作品。

社会福祉法人厚生館福祉会
（取材園：宮前空翠保育園）

＜お問合せ＞
神奈川県川崎市多摩区
菅稲田堤1-10-1
☎044-944-5451
設立：1952年2月

川崎市を中心に、16の保育園（小規模園含む）や乳児院、児童発達支援事業など、子どもに特化した事業を展開している。法人理念「至誠」のもと、子どもたちの幸せを第一に考え、たくさんの笑顔の輪を広げていける保育や養育に努めている。

求人情報はこちら

田園調布学園大学

＜お問合せ＞
神奈川県川崎市麻生区
東百合丘3-4-1
☎044-966-9211
設立：2002年4月

福祉・教育・保育・心理分野で活躍し、子どもから高齢者までの人の生涯を見通し支援する実践力を有する人材を育成する大学。柔軟で寛容な心を持ち、ものごとに真剣に取り組んでいく学生を養成し、社会貢献できる人材を送り出すということを願い、また、教育方針としている。
※子ども未来学部は、令和7年度より子ども教育学部になる。

HPはこちら